

## 第 69 回町田市環境審議会議事要旨

【日時】 2017 年 1 月 27 日（金） 18：30-20：30

【場所】 町田市庁舎 2 階 会議室 2-1

【出席者】

委 員： 吉村委員（会長）、川瀬委員（職務代理）、堂前委員、渋谷委員、中丸委員、  
山崎委員、渡邊委員、岩上委員

事務局： 環境資源部 小島、環境政策課 水島、宮坂、塩澤、濱田、坂牧、香山

傍 聴： 0 名

【議題】

- 1 後期アクションプラン（案）の最終確認について
- 2 答申（案）について

【資料】

資料 1： 第 68 回環境審議会までの指摘と対応結果及び主な修正点

資料 2： 後期アクションプラン（案）

資料 3： 後期アクションプラン答申（案）

議題

- 1 後期アクションプラン（案）の最終確認について

全体

渋谷委員： 指摘 38 について、目次にも基本目標 1 という文言を書いたほうがインデックスとも整合が取れて良いのではないか。

会 長： ご検討いただきたい。

1 章

岩上委員： P12-13 の 2 章の見方について、P12 を読んでいくと突然見方に入ってしまう。見方の部分は四角で囲うとか、P12 の最初の 4 行は P14 からの文章に移すなどした方が良いのではないか。

事 務 局： 見やすくなるよう、修正する。

中丸委員： 指摘事項の 13、適応策は抑制策があった上であるもので、適応策がメインと見える表現は良くないのではないか。

堂前委員： 気候変動は勢いがついてしまっているのに、CO<sub>2</sub> を減らしてもある程度気温上昇などが起こってしまうという前提で、その対策をしなければならないというのが国の第 5 次評価報告書（IPCC）であり、適応策の考え方である。適応策があれば緩和策がいらないということではなく、両方が必要ということであ

る。

山崎委員： P4 からの達成目標の現状は、2015 年度までが記載されているが、2016 年度の実績はいつぐらいに出るのか。見込み値を出すことは可能か。

事務局： 前年度の実績が出るのは早いもので 6 月である。市民アンケートの結果を使用するものは、4 月に実施したアンケート結果を集計して算出する。CO<sub>2</sub> 関連は集計の関係があつて 10、11 月の算出になる。現在の値として出せるのは 2015 年度の数値である。

渋谷委員： 第 68 回の資料では、前期アクションプランの総括という項目があつた。今回の資料では P2-3 にかけて、前期アクションプランという表現が出ていない。P3 の計画の期間で、前期計画期間と記載はあるが、初めて読む人にとっては前期期間があつたというのが分かりづらい。前期があつて後期というつながりが分かるような説明があると良いのではないか。

事務局： 分かりやすくなるよう、工夫したい。

渋谷委員： P4 のタイトル、前期総括とあるが、前期アクションプランの総括ということか。そうであれば、そのように表現した方が良いのではないか。

## 2 章

中丸委員： P25 コラム、自家用車とバスの比較数値は一台あたりなのか、あるいは平均乗車人数等で割ったものなのか。

事務局： 算方法などは再度確認したい。

山崎委員： P19、家庭向けに勧めるエネルギーの取り組みであるならば、「再生可能エネルギーの導入」よりも、電気のコマメなスイッチオフやエアコンの温度設定についての項目の方が適切ではないか。P37、市民の取り組みとして「フットパスコース歩いてみましょう」とあるが、市には具体的にコース紹介などが載っているものがあるのか。あるならば、それをこの冊子でも紹介するとより良いのではないか。

事務局： P37 に関しては、NPO が出しているフットパスの冊子紹介等を検討したい。

岩上委員： P37、40 にもフットパスが出ているが、わかりにくい。

川瀬委員： 用語解説にもフットパスの記述があるので、うまく連動させると良い。

岩上委員： 環境白書データ集 P32 に市内各地にフットパスの道標を建てたとあるが、道標の表示が番号だけで、何の番号を表示しているのか意味が分からない。それだけでは歩けないので、もっと工夫ができないか。

会長： フットパスコースの紹介など、記載を検討いただきたい。

事務局： P19 については、再生可能エネルギー由来の電力を使用してもらいたいということや、電力会社の選択など、一歩踏み込んだものとして記載している。フットパスについては、掲載できるものがあるか検討したい。

岩上委員： 「住宅を新築・改築するとき再生可能エネルギー導入」とあるのは分かるが、日常エネルギーを使用するときの項にも同じ表現があるが、日常生活の中で具体的何が出来るのか。

事務局： 住宅の新築・改築時のみに修正する。

- 渡邊委員： P20 の記載は事業者向けになっていない。
- 事務局： 訂正する。
- 岩上委員： P34、外来生物とは何かというのが出てきていない。環境省のHPで出しているものの紹介や、町田市ではどういう扱いにしているのかを記載しても良い。環境省が出している内容について、市職員の知識が少ないことも問題である。町田市にも外来生物に関する様々な事例があるので、取り上げてみても良いのではないかな。
- 堂前委員： 特定外来生物、要注意外来生物、その他の外来生物という分類があるので、それぞれについて、普及啓発の意図も含めて記載があると良いのではないかな。
- 川瀬委員： 外来生物は用語解説にあるので、それをうまく活用するよう、本文に記載をしていただくと良いのではないかな。もう少し掘り下げるのであれば、解説の中を細分化して書くなど、工夫していただきたい。
- 岩上委員： 用語解説に掲載する事項には\*印があるものだと思うが、\*印が抜けているものもある。もう一度、全体を整理していただきたい。
- 会長： 用語解説と本文との対応を見直し、もう一度点検していただきたい。
- 中丸委員： P35、自家用車の洗車について、唐突な印象がある。生物の環境を守るためにといった記載があると良いのではないかな。
- 会長： 検討いただきたい。
- 川瀬委員： 環境情勢の現在を知る上で、この冊子は良いテキストになっていると思う。そういう意味で、市民への配布計画はどうなっているか。効果的な方針があればお示し願いたい。
- 事務局： 後期アクションプランは有償販売になるが、市民の方に広く見ていただくために概要版の作成を予定している。
- 川瀬委員： 概要版は必要である。施設に置いておくだけではもったいないので、環境講座や講演会等で配布・使用するなど、活用方法を検討いただき、今後具体的な話が出たら教えていただきたい。
- 堂前委員： 緩和策を置き去りにして適応策という印象を与えないよう、P7 の記載に片方では不十分である事情などを追記し、また、P27、29 で、緑地の保全が気候変動による大雨等の災害から市民の生活を守るといった記載を追加すると良い。
- 会長： 緩和策、適応策については、市民の方にはまだ馴染みのない言葉でもあるので、その辺の説明も加えていただいて、修正してもらえると良い。
- 中丸委員： P78 アスベスト、この表記では天然に存在しているものが悪さをしているように取れるので、耐火性・断熱性に優れていたため広く使用されていたと追記してはどうか。
- 山崎委員： P6、③不満が見られますとあるが、その結果を踏まえてその下の課題に記載をすべきかどうか。
- 会長： 課題として書いてしまうと、その対策をとっていく必要がある。
- 山崎委員： 不満がある状況なのであれば何かしなければいけないのではないかな。
- 堂前委員： 何か出来るかどうかは別として、行政としては課題と認識しているのか。
- 川瀬委員： 街並みについては、都市景観ということでまとめて課題の記載ができるのでは

ないか。航空機騒音はまた違った問題なので、表記は別になる。

事務局：景観については、景観ガイドラインなどにより進めている。無電柱化も都が進めており、町田市役所の周りも進んできている。航空機騒音は厚木基地から近いという町田市の特殊事情があるので、苦情もいただいているが、それについては別途対応をしているところである。

## 2 答申（案）について

岩上委員：答申の日程までに修正が間に合うのか。また修正を加えたものを誰が確認するか。審議会の場で最後の確認がなされるべきではないか。

会長：私に一任いただければと思う。

川瀬委員：10年でなく、5年の見直しについて同感である。市のみどりの基本計画、都市マスタープランなどにも5年の見直しという動きがあるのか。環境単独の動きなのか。

事務局：環境マスタープラン単独の方針である。

渋谷委員：環境基本計画は環境基本条例に基づいた計画だと思うが、国や都から推奨された数値などがあって設定しているのか。

事務局：条例は、上位の法律により設定している。数値も国や都が掲げるものに合わせて設定している。

渋谷委員：5年での見直しについて、世界に目を向けるとアメリカの大統領が変わり、温暖化施策についても世界規模での動きも変わるのではないか。そういった意味でも時勢にあった対応というのは、求められると思う。この表現で十分かどうか、更に短い期間での改訂も検討すべきかもしれない。

堂前委員：環境行政は長期的なものなので、あまり短期周期に設定するものではないので

はない。  
現状マスタープランを10年としていることでどういった苦労があるのか。例えば、マスタープランで固まっているからアクションプランで変えられない、ということか。

会長：あくまでマスタープランで決めた目標に対するアクションプランということになるので、そういうこともある。

川瀬委員：5年で見直しとなると、年次計画の持つ意味が変わってくる。今までは長期・中期・年次計画という構造が行政施策として通例であったが、時勢に合わなくなってきたのかもしれない。そういう部分も含めてこの議論が出ているのかもしれない。

渋谷委員：COPも毎年開催されているので、マスタープランはその時点での目標を立てるとしても、アクションプランは毎年数値を見直し可能なものとして、その中で進めていくことが必要ではないか。東日本の震災でかなりの影響があった。世界規模でそういった変化があればその都度それに対応していく必要が出てくるだろう。

- 堂前委員：5年ごとにマスタープランとアクションプランの両方を見直すということか。
- 会長：この答申が実現すればそういうことになるだろう。5年間という周期をマスタープランとアクションプランの両輪で並走する形になる。  
よろしければこの答申案で提出させていただく。  
最後に何かあるか。
- 岩上委員：各所にハスのんが使われているが、馴染がない市民もいるだろうからキャラクターの説明や誕生の経緯なども入れると良いのではないか。
- 事務局：自己紹介を入れることを検討したい。